

国際交流基金事業外国人学識者招聘プログラム（アポイントメント）
実施報告書

明治大学国際日本学部 教授 張競

招請教授氏名： Halvor Eifring
所属機関・職位： University of Oslo・教授
招請期間： 2018年10月20日～2018年10月29日

講演ならび学術交流の実施経過

Halvor Eifring 教授は2018年10月20日午後、東京に到着しましたので、招聘者の張競は出迎えに行き、宿泊予定の和泉インターナショナルハウスに案内しました。

一日の休憩の後、10月22日の午前中11時頃、Halvor Eifring 教授は招聘者に伴われて、明治大学国際連携事務室を訪れ、所定の手続きを済ませました。

昼食の後、中野キャンパスに移動し、312教室で「Mind Wandering in Comparative Perspective: Spontaneous Thoughts in Science, Philosophy and Contemplative Traditions」と題する講演を行いました。Halvor Eifring 教授は東洋文化と西洋文化における随意的な思考に対する捉え方の違いを比較し、芸芸や哲学および、静観の伝統においてそれがどのような形態を取っているかについて語りました。講演には本学の大学生や大学院生だけでなく、学外からも研究者が参加し、聴衆が100名近くに上りました。徴収者たちは講演の内容にたいへん興味を持ち、講演の後、熱心な質疑応答が行われました。

2018年10月24日、中野キャンパスのホールで「A Comparative View of Meditative Cultures: The Interplay of Practice and Context in Traditions of Self-Cultivation」と題する、2回目の講演をしました。Halvor Eifring 教授はメディタティオやディヤーナおよび東洋の無念無想などの概念と実践を比較文化学の視点から捉え、現代のマインドフルネスとの継承関係ならび違いについてわかりやすく語りました。この日も本学の教員や大学院生、学部生ほか、他大学の教員と大学院生および市民も参加しました。聴衆の数は1回目を上回り、ホールがいっぱいになるほどの大盛況でした。講演の後、聴衆から質疑と講演者の応答がありました。

2018年10月29日、本学でのすべての日程を終えた Halvor Eifring 教授は午前の便で帰国の途に着きました。

つきましては、実施報告を申し上げます。